



アイマスクを着けて盲導犬と歩行体験をする児童

目の不自由さ体験

盲導犬にも理解深める

前谷地小

石巻市前谷地小（児童130人）で、「キャップハンディ体験」があった。4年生17人が参加し、活動を

通して視覚障害者や盲導犬への理解を深めた。

講師を務めたのは、日本盲導犬協会仙台訓練センター職員の さん（26）。同市の視覚障害者団体「一步を楽しむ会」代表の さん（49）が、盲導犬ユーザーとして参加した。

さんは、視覚障害者が外出するには白杖はくじょうを用いたり、健常者や盲導犬と歩いたりする方法があり、それぞれに利点があると説明。盲導犬は「障害物を避けて通る」「曲がり角を伝える」「段差を教える」の三つの仕事をしていると述べた。

さんは「以前、外出時に白杖を用いていたが、物に当てながら歩くことに抵抗があり、出掛けることが少なくなっていた。現在は、盲導犬と共に仙台や東京にも出掛けることができ

るようになった」と体験談を語った。

児童の代表者が、アイマスクを着けて白杖などを体験。盲導犬と共に歩行した さん（9）は「目が

見えないことは少し怖かったが、盲導犬が頼りになって安心して歩けた」と話した。

キャップハンディ体験は2日に実施された。